

入 管 事 件 簿

(2006年～2007年10月)

2006年以前の入管事件簿は http://rafiq.jp/siryou/96-05n_jikenbo.pdf をご覧ください。

このデータは、日中友好雄鷹会大阪府本部、TRY、西日本入管センターを考える会などのご協力をいただいで作成したものです。特に記述のないものは、西日本入管センターでのものです。

2006年	
1月24日	・強制送還 日本で生まれ育った子どもたちを含むコロンビア人一家が強制送還（名古屋入管・共同通信）
2月1日	・強制送還、裁判をする権利をはく奪 難民申請中のクルド人が異議却下の後、強制送還。難民不認定の裁判をする権利を送還によって奪われた。（東京？・東京新聞）
2月3日	・強制送還未遂 イラン人難民の男性を強制送還させようとして、搭乗拒否されたため、送還できなかった（荷物の中に反政府的な書類などが入っていた）（牛久）
3月後半～4月	・支援者への嫌がらせ 長期収容者への処遇の実態を把握しようとアンケートを作成し、面会差し入れ窓口にて差し入れたところ、窓口が差し入れを拒否。「保安上の理由」「（収容者が）このアンケートが入管自身がしているものと思ひ込む」などと、わけのわからない理由。面会にて個別にアンケートをすることが可能になるが、面会にて他の長期収容者を教えてくれという、阻止されたりするので、実質的なアンケートができずに完了せず。 収容・処遇状態を把握させない支援者に対する嫌がらせおよび、収容者にも本当のことを支援者に伝えさせない嫌がらせ。
4月18日	・医療問題、支援者への嫌がらせ 収容者への面会を続け、医療的な見地から助言していた面会ボランティア医師が、入管により、面会を拒否される。 「これ以上収容を続けると収容者の体調に差しさわりがあるので早期の仮放免を」と事前に意見書を出したことによるものと思われる。5月23日に公開質問状を提出。（4月30日朝日新聞ほか、5月23日毎日新聞）
5月14日	・摘発・強制捜査 広島のアテンバーで、警察と一体になった摘発行動。9月13日には、アメリカ政府の職員と共に強制捜査。（広島）
7月26日	・強制送還、民事調停申し立ての機会を奪う 在留資格について民事調停申し立て中で翌月にも調停が予定されていた、韓国人女性 Iさんが強制送還。調停が不成立の場合に備え、裁判の準備もしており、また当日仮放免申請の予定で、入管もそのことを知っていた。
7月末	・入管の医師不在 7月末で入管の医師が退職し、翌年3月まで医師が不在。最初のうちは仮放免があったが、そのうちに外部診療にも消極的になり、医師の診断なしに投薬が続けられる人もいた。
9月25日	・強制送還、裁判をする権利をはく奪、医療問題、隔離 日本人配偶者のトルコ人男性が裁判の準備中に強制送還。医師の診察を断られ、怒鳴ったことで、5日間隔離。その後、男性はハンストをしていた。

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師不在 <p>医師不在が2年目と報道（大村・読売新聞）</p>
2007年	
5月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不正徴収 <p>強制送還時の空港使用料などを強制送還対象者から不正に徴収し、裏金を作っていた（東京など・朝日新聞）</p>
5月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援者への嫌がらせ <p>面会ボランティアの医師の面会が制限される。職員が面会に付き合い、問題があれば面会を中止するという条件付きになる。22日に申し入れ。</p>
6月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題 <p>収容者が外部診療の病院に直接カルテ開示を電話で依頼したことにより、食事中に別室で呼び出され、罵倒される。</p>
6月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入国拒否 <p>ビルマ難民の入国に出迎えた家族の通報により、空港の入管施設に収容されていることがわかる。（関空）</p>
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事 <p>米飯をパンに変更してもらいたいという収容者の要望を拒否。食文化の違いにより、収容者にとっては米飯を出されることが苦痛。</p>
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処遇 <p>カミソリの使いまわし。 エアコンが夜中12時で電源オフになる。この夏は異様な暑さで西日本入管はほぼ満杯状態。寝苦しい毎日。解放されない土日は、どんなに暑くてもシャワーを使えない。</p>
10月10日ごろ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の異物混入 <p>4月より給食業者の随意契約だったのが入札制度に変わり、業者が変わったにも関わらず、弁当やみそ汁の中に異物混入がたびたびあった。収容者自身でチェックし、混入があった場合交換に応じていたが、この日は途中で混入に気付き、交換を要望したが、拒否された。何度かの応酬の後、次の食事から収容者の居室にいる者が全員ハンスト。次の日から、その部屋のあるブロックのほとんどの収容者（60名以上）がハンストに参加。代表を立てて、入管と話し合いがもたれ、食事の異物混入のほか、土日の開放などを要望。異物混入に関して、業者に厳しく注意するという回答を得て、ハンストを中止。</p>
10月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療 <p>収容者が金曜日の夜に急性胃炎を発病。医師が退出した後で、同室の他の収容者が職員に外部診療を要求。しかし、外部診療に連れて行ったのは土曜日になってから。</p>
10月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不当な隔離 <p>上記の要求をしていた収容者が約5日間の隔離。「業務の邪魔をした」という理由。</p>
10月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強制送還、難民不認定に対する異議の申し立てや裁判をする権利の剥奪 <p>インド難民申請者が難民不認定になったことで「異議の申し立て」ができるにもかかわらず、その機会を与えず、即日強制送還。</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題 <p>4月から赴任してきた医師は、どのような症状にも問診、触診などをせず、バファリンや湿布薬を処方するだけ。収容者は医師としての信頼をしていない。高血圧の人が処方された薬で高い数値の血圧になる。</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題 <p>外部診療時の診断書交付を収容者自身が入管に要請したが、拒否された。</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療問題 <p>左肩にできものがあり、左半身に痛みを感じる収容者には、できものについて医師は「何もない」と診断。</p>